

コラム

《腰折れ文》 十二、

渡邊澄子（会員）

ニュースのスピードから遙かに遅れをとるのはこの種の文章の宿命で如何ともなしたい。モリ・カケ問題が文科省汚職の奥の深さを露呈し、天下り、セクハラの発覚、さらに沖縄問題とも相俟って、文科省だけではない「権力の内幕」（『東京新聞』）を知ると、「一強」の不条理が居たたまれない。「参院6増法」も「カジノ法案」も多くの反対を「安倍一強」で成立させてしまった。ギャンブルにはまって家庭崩壊、泣いて諫める妻へのDV悲劇が如何に多いか、家庭裁判所の調停委員から聞いたことがある。膿の根源は「一強」にあるが、うんざりするそれら諸問題から目をそらさせたのはサッカーW杯だった。安倍氏にとってW杯様々だっただろう。

世界の人々の耳目を集めたのはタイのサッカーチームのメンバー十三人の少年と男性コーチの洞窟閉じ込

め事件だろう。無謀な洞窟入りではなく、これまで何度も入っている子どもたちにとって興味深い場所なので無慮と責められない。不運は想定外の大雨だった。これが世界平和に活かされたらと思わず思ってしまったが、救出に世界が知恵を出し合ったことはお見事だった。ぎりぎりの段階での全員無事奇跡の生還。ニュースには思わず涙がこぼれた。救出に当たって犠牲となられた方、甚大な被害を受けた農家のことを忘れてはならない。それにしてもこのような状況下では僅かな食料（菓子）の取り合いでパニックになるのが普通だろう。コーチの冷静、沈着、伶俐な対応と、それに従った少年たちは素晴らしい。美談などと安っぽく語られてはならない。日本の閣僚や官僚の「お偉いさん」たちにはない人間の美しさで、心温まるニュースだった。

嬉しいニュースはまだあった。ノーベル平和賞を受賞しながら受けとりもできず服役中に獄死した中国の人権活動家・劉曉波氏の軟禁されていた妻劉霞さんがドイツに行けたことだ。米国との貿易摩擦という政治的背景があったとしても、ともかく渡独できてよかった。人質状態にある弟の解放が待たれる。時代の動きは目まぐるしい。お茶の水女子大がトランスジェンダー受け容れを宣言した。日本女子大・津田塾大・奈良女子大も本格的に検討中という。トイレと更衣室整備が女子大にとっての課題という。室生犀星は立って排尿したことのない人だった。問題は更衣室か。

女性にとってのグッドニュースも一つ。サウジアラビアで女性の運転の自由化実現だが、こんな時代遅れの国もあったのだとは知らなかった。颯爽と運転する女性の姿に拍手したい。

オウム事件十三人の死刑執行が二回に分けてあった。私は死刑反対論者だが、麻原以外の十二人の執行経緯は不明のまま。執行命令書に署名した上川陽子法相は前夜、議員宿

舎で開催のパーティで安倍氏のそばで平然と笑っていた。どんな神経の女性なのかと恐怖される。

日常的に酷すぎる目に遭わされ続けている沖縄問題を寸言で書くわけにはいかない。凄まじい西日本の豪雨には息を呑んだ。予報があったのに官邸では賑やかに宴会がなされていたとは！ 安倍政権の実相か。あつという間に激しい泥流に根こそぎ流され破壊され埋め尽くされる映像に震えた。まだ継続中だが巨大なゴミの山。ゴミはゴミなんかではない。大事な財産や生存になくてはならない資本だろう。もし、私が当事者だったら仕事に不可欠な書籍や資料がゴミにされたら生きてはいけない。家や財産を失ってこれからどうしたらよいのか。辛くて辛くて、涙も出ない。馬鹿げた多額の防衛費、「思いやり予算」、その他、無駄の多い腹立たしい税金の使い方を点検して、被災者の嘆きへの思いやりに廻して欲しい。ちょっと自己宣伝。安倍政権の歴史認識に対する無知・無恥への怒りから「負」の歴史を検証した『植民地・朝鮮における雑誌「国民文学」』を八月初めに刊行します。